



正義記憶連帯

2020.05.27.14:00

[日本軍性奴隷制 問題解決のための第 1441 回定期水曜デモ 経過報告]

正義記憶連帯の先週は苦痛と挫折、絶望と悲しみの時間でした。

まず、保守団体の無差別告訴・告発に続いて5月20日～21日の両日にかけて検察の押収捜索が行われました。第1440回水曜デモ直後の20日午後5時から正義連事務所と「戦争と女性人権博物館」で検察は約12時間も押収捜索を行い、21日午前には体の不自由な吉元玉ハルモニがいらっしゃる麻浦区の「憩いの場(シュイムト)」まで押しかけました。押収捜査終了2日目のさる土曜日、検察の呼出し通知を受け、火曜日(26日)に検察の初面談調査も行いました。

外部会計検証手続きをして監査資料を準備する中で、公益性と専門性、透明性を確保するために具体的な努力を傾けると約束した後で、シュイムト資料を任意提出すると検察と合意した所なのに、衝撃と切なさには到底表現できません。

しかし正義連は、検察のすべての捜査手続きに協動的だったのはもちろん、大部分の文書資料と押収された以降も、矢のように降り注ぐ言論の各種「疑惑」提起に最大限誠実に答弁する努力をしました。公正な捜査と迅速な疑惑解消を期待していたからです。

そして5月25日(月)、李容洙^{イ・ヨンス}ハルモニの記者会見を残念な心情で見守りました。心痛み、本当に申し訳ないです。その深い苦痛と鬱憤、悲しみの根を、私たちみんなが重く受取ります。これまで30年間、闘争の成果を引き継ぎ、被害者たちの苦痛が解消されずに問題解決が遅延する根本原因を自ら振り返り、再点検せよということを受け取ります。韓国社会に依然として聞こえなかったり、歪曲して認識されてきた植民地女性人権侵害と性暴力の歴史を、もう一度喚起する契機になりました。

それにしても韓国社会と言論に惨憺たる姿を感じました。「単独」と言う名前の歪曲・偏向報道が毎日、数限りなく浴びせられ、SNSにはあらゆるニセ情報と罵詈が溢れ、知識人でさえ断片的で歪んだ情報投稿が頻発しました。咬みついて、引掻いて、癒えない傷を加えるのに汲々としていました。

植民主義、軍国主義、家父長制体制の民族とジェンダー、階級問題だと声を張り上げましたが、反日、反米、従北、民族主義、フェミニズム、「韓日関係の障害」などのフレームは、一挙に石ツブテの材料になっています。

何よりも李容洙・人権運動家に対する非難と攻撃を、どうか止めて下さい。これこそ運動の意味と価値を根本的に毀損する行為です。日本軍性奴隷制の実態を知らせ、自らの尊厳と名誉回復のために共に努力してきた30年の歳月をそれだけ後退させ、私たち皆をまた1990年に戻す行為です。

だから正義連は、この運動を始めたまさにその時点から、再び始める心情で今日の水曜デモに立ちました。いま、より客観的にこの「事態」を見詰め、約束できない未来を再度想像します。

もう一度、切実に訴えます。

検察調査が行われていますが、どうかこれ以上、憶測と生半可な判断を自制して下さい。事務所前と駐車場を占有して付いて回り、カメラを持って周辺の人にあちこちから接近し、やたらに爆弾電話をかけ、甚だしくは非公開被害者と家族を苦しめる行為はどうか止めて下さい。

この身震いする暴風の切っ先に何が残るのか、深く考えてください。もう少し耐え、待って下さることを切にお願いします。日帝植民地の惨たらしい時間、大韓民国の全員が沈黙した時間、数多くの被害者と活動家、市民が共に真実のために闘った時間、その時間の重さと深さを思って、もう少しだけ待って下さい。

昨日5月25日、もう一人の被害生存者が星になって天へ逝かれました。

正義連は名もなく消え行く沢山の被害者の希望を掴んで、人権運動家になった被害者たちの遺志^{いただ}を戴いて、水曜デモの場を未来世代のための歴史教育と人権教育の場、韓日市民はもちろん全世界市民たちの平和な出会いの場として、変わることなく継続して守って行きます。この地上に戦争と性暴力が消えるその日まで、共にすることを約束します。

最後に、今回の凄惨なことで傷を受けた方たち、絶望の時間にも一緒にいて下さった沢山の方たちへ、この場を借りてもう一度謝罪し、深い感謝を送ります。

2020年5月27日

正義記憶連帯 理事長 ^{이·나·영} 李娜榮

1441回水曜デモ (05.27)



(翻訳：権龍夫)